

令和7年度 助産師セミナー&交流会 終了後アンケート結果

2026年3月12日記

結果分析・評価担当：本学看護学科 母性看護学・助産学領域

荻野唯、吉原茉寿、巻島愛、山内まゆみ

調査方法：インターネット（Google フォーム）によるアンケート項目の閲覧を依頼し、オンラインによる回答により回収した。卒業生9名、卒業生以外の助産師2名、在学生16名の合計27名の参加者に依頼した。

調査期間：2026年3月6日終了後～3月12日

回収数・回収率：25名から回収した（回収率92.6%）。

1.参加者数

■ 助産師セミナー（午前の部）：11名

内訳：卒業生5名、外部助産師2名、

在学生4名（3年）

■ 助産師交流会（午後の部）：22名

内訳：卒業生6名、

在学生16名（4年生4名、3年生5名、2年生5名、1年生2名）

1. セミナー・交流会の参加人数の評価

助産師セミナー参加者は11名であった。そのうち、卒業生5名、卒業生以外の外部の助産師2名、在学生4名であった。助産師セミナーの内容は、旭川医科大学病院5階東病棟 不妊症看護認定看護師の森下恭子さんを招き、テーマ「不妊治療中・不妊治療後の看護の実際とポイント～不妊症看護認定看護師の経験から～」とし、講義（60分）を行った。臨床に活用できるテーマであったことにより、卒業生および学生にとって関心の高い内容だったと考える。参加者数は昨年度より少なかったものの、市内医療機関からの参加も得られ、地域の助産師との交流や学習の機会として一定の成果があったと評価する。

助産師交流会参加者は22名であった。そのうち、在学生16名、卒業生6名であった。卒業生は例年同様の参加者数であったが、在学生の参加者数が減少した。学年により、助産師選択希望者に差があることが影響していると考えられる。

2. 【全員お答えください】本会のインフォメーション時期は、出席の有無を決定するのに適切でしたか。

表1 本会のインフォメーション時期

	計	%
早すぎる	0	0.0
適当	25	100.0
遅すぎる	0	0.0

2. 本会のインフォメーション時期の評価

回答者全員が適当と回答していることから、インフォメーション時期は適当であったと評価する（表1）。次年度以降も同時期（1月中旬に案内、2月下旬に申込み締め切り）のインフォメーションを行う。

本年度も出欠の確認に Google フォームを使用した。申込者に登録完了のメールが送信される設定した上で、リマインドメールを開催1週間前に送付したことで、本会に関する質問や問い合わせは特にみられず、参加者への周知は円滑に行えた。

3. 【全員お答えください】開催時期は適当でしたか。

表2 開催時期

	計	%
適当	25	100.0
無理して参加した	0	0.0

3. 本会の開催時期の評価

適当が25名(100.0%)であり、適当な開催時期であったと評価する(表2)。

4. 【セミナー(午前)に参加したのみお答えください】助産師セミナー(午前)の開催所要時間は適当でしたか。

表3 助産師セミナーの開催所要時間

	計	%
適当	12	100.0
短い	0	0.0
長い	0	0.0

4. 助産師セミナーの開催所要時間の評価

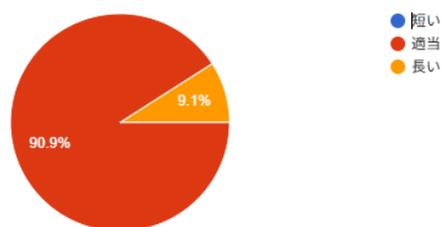
適当が回答者12名中(100.0%)であり、適当な開始所要時間であったと評価する(表3)。次年度も同様の所要時間で企画を検討する。

5. 【交流会(午後)に参加したのみお答えください】助産師交流会(午後)の開催所要時間は適当でしたか。

表4 助産師交流会の開催所要時間

	計	%
適当	20	90.9
短い	0	0.0
長い	2	9.1

図1 助産交流会の開催所要時間



5. 助産師交流会の開催所要時間の評価

回答22名中20名(90.9%)が開催所要時間を適当と回答したことから、参加者の交流が十分に持てた所要時間であったと考える(表4,図1)。本年度の交流時間は昨年度より15分多い80分確保したことから、2名(9.1%)にとっては、所要時間が長く感じたと考えられる。次年度以降は60分程度の所要時間となるよう計画する。

6. 【卒業生、現職助産師のみお答えください】本日の出席は業務範囲でしたか。

表5 卒業生：出席方法

	計	%
業務の範囲で参加	2	22.2
個人の時間で参加	7	77.8

6. 参加形態の評価(業務としての出席の有無)

卒業生の出席は、業務範囲内での参加2名(22.2%)を除き、7名(77.8%)が個人の時間での参加であった(表5)。7~8割の卒業生が個人の時間で参加しており、セミナー内容の興味・関心や、在校生との交流への意欲が高い者の参加につながったと評価する。次年度も、業務の一環としての参加者数が増加するよう、職場へ依頼文を示すなど、案内を継続し卒業生が参加しやすいよう配慮していく。

7. 【セミナー(午前)に参加した方のみお答えください】あなたにとってセミナー(午前)はいかがでしたか。(複数回答可)

表6 セミナーについて

	計	%
不妊症看護認定看護師が実践している不妊治療中・不妊治療後の看護の実際を学ぶことができた	11	100.0
今後のキャリアの参考になった	9	81.8
思っていた内容と違った	0	0.0

7 セミナーに対する評価

11名のセミナー参加者から回答を得た(表6)。全員が不妊症看護認定看護師が実践している不妊治療中・不妊治療後の看護の実際を学ぶことができたという回答しており、セミナーの到達目標は達成できたと評価する。

8. 【交流会(午後)に参加した方のみお答えください】あなたにとって交流会(午後)はいかがでしたか。

表7 交流会について

	計	%
興味深かった	21	100.0
役立たないと思った	0	0.0

8 交流会に対する評価

22名の交流会参加者から回答を得た(表7)。回答者全員が肯定的な項目に回答しており、参加者にとって有意義なものであったと評価する。

9. 【交流会に参加した在校生のみお答えください】以下の該当する項目すべてにチェックをつけてください。(複数回答可)

表 8	計	%
①助産師課程選択の決定に役立った	10	66.7
②助産師課程選択の決定に関係なく、助産師に興味を湧いた	2	13.3
③助産学を学ぶ意欲が湧いた	10	66.7
④今後の学習に役立つ方法やポイントへのアドバイスを聞いた	11	73.3
⑤就職情報として活用できた	10	66.7
⑥助産師になりたいと思った	9	60.0
⑦疑問点が解決できた	2	13.3
⑦思っていた内容と違った	0	0.0
⑧来年度も出席したいと思った	8	53.3

10. 【交流会に参加した卒業生のみお答えください】以下の該当する項目すべてにチェックをつけてください。(複数回答可)

表 9	計	%
①有意義な時間だった	7	87.5
②学生に助産師の仕事を理解してもらえるようアドバイスができた	0	0.0
③就職の勧誘に役立った	1	12.5
④明日からの仕事の活力に役立った	4	50.0
⑤思っていた内容と違った	0	0.0
⑥来年度も出席したいと思った	1	12.5

11.10で「有意義な時間だった」とご回答された方は、どのような点でそのように感じましたか。<自由記述>

- ・ 学生さん達の助産師を志している理由などを聞いて、自分も初心の気持ちになることができた
- ・ 現役助産師からの実際の勤務形態なども聞いたため、働いた後のイメージもつけることができた。
- ・ 過去の自分を振り返ったり、助産師を目指すきっかけを振り返る機会となりました！
- ・ 久しぶりに学生時代のことを思い出すきっかけとなり、懐かしさもあり、改めて助産師になって良かったなど今後の活力に繋がりました。

9,10,11 交流会に対し有意義と感じた内容(在学生、卒業生)

設問 9 について、15 名の在学生から回答を得た(表 8)。在校生にとり、今後の学習に役立つ方法・ポイントのアドバイスを聞いたが 73.3%、助産師課程選択の決定に役立ったが 66.7%、助産学を学ぶ意欲が湧いたが 66.7%、就職情報として活用できた 66.7%と回答していた。助産師課程の選択に関する意思決定のみならず、助産学への学習意欲の向上や就職に関する情報収集の機会として有用であったと考えられる。

設問 10 について、8 名の卒業生から回答を得た(表 9)。7 名(87.5%)の卒業生にとって有意義な時間であり、4 名(50%)の卒業生が明日からの仕事の活力に役立ったと回答した。卒業生にとり、セミナー・交流会が有意義なものとなるよう次年度も計画を進めていく。

12. 【全員お答えください】助産師セミナー&交流会の内容の希望、意見、改善点等<自由記述>

- ・普段聞くことがない正直な話を聞くことができてよかった。来年度も参加したいと思った
- ・助産師の方や先輩方との交流を通して、今後の進路選択に向けて良い機会となりました。ありがとうございました。
- ・在校生の体験談だけでなく卒業生の話も聞いたことで、助産師という仕事の現実を知ることができたのが良かった。
- ・年代が違いすぎて、来年度からは午後は出ないようにします。学生が話したいこと話せたか不安です。
- ・4年生も交流の時に場所移動していただくと、色々な人の意見が聞いて良いと思いました。
- ・とても興味深いセミナー内容で、参加させていただき、とても良かったです。医大の高度生殖医療が再開されるそうなので、今後はいろいろな面で交流が出来るようになることを願います。認定資格も持っている方がこんなにすぐ近くにいらっしゃるのも何かのご縁かと思いますので、これからもいろいろと学びの機会があると嬉しいです。よろしくお願いします。
- ・交流会の際に、発言することをためらってしまう学生もいると思うので、事前に聞きたいことを募集し、スライドに(タイマーと同時に)質問例として掲載するとより有意義な話ができるのではないかと感じた。
- ・5年ぶりに大学に伺い、とっても楽しい時間となりました。ありがとうございました
- ・この度は貴重なセミナーに参加させていただきありがとうございました。(個人情報のため中略)病棟助産師として働いていたときにARTを経て出産された方の母親役割の獲得が遅れることについてずっと気になっていました。そして、念願だった子どもを目の前にして育児行動がなかなか取れないことに疑問を抱き、不妊治療に関心を持ちました。今、不妊治療をしている患者様と日々関わる中で、こんなにも大変な治療、通院が必要なのだと初めて知りました。病棟で働いている時に、不妊治療の大変さをもっと勉強、理解していたらもっと違う声かけができたのかなと考えることも多いです。このようなセミナーを通して、不妊治療に関わる看護師だけでなく、学生さんや病棟助産師にも不妊治療について、不妊治療中や後の患者様との関わりについて知っていただきたいと思います。私も今後またこのような機会があれば参加させていただきたいです。大変勉強になりました。ありがとうございました。
- ・聞きたいことを聞けたり、知りたかったことを知る良い機会になったのですごく良かったです。
- ・助産師課程を学んだ先輩や、助産師として活躍する先輩方から多くのお話をお伺いでき、とても有意義な時間を過ごすことができた。
- ・グループでの交流を通して、参考になる情報をたくさん得ることができ、とても勉強になりました。
- ・4年生や卒業された先輩方とお話することで、助産師の業務や就職先、助産選考試験について学び、疑問や不安の解決に役立てることが出来ました。ありがとうございました。

12. 自由記述の評価

自由記述では、「普段聞くことがない正直な話を聞くことができた」「助産師や先輩方との交流を通して進路選択に向けて良い機会となった」「助産師として活躍する先輩方から多くの話を聞くことができ有意義であった」など、交流会が学生にとって助産師の仕事や進路を具体的に理解する機会となったことを評価する意見が多くみられた。

また、卒業生・外部の助産師からは、「不妊治療やその後の看護について理解を深めることができた」、「今後もこのような学習機会に参加したい」といった意見があり、臨床で働く助産師にとっても学びの機会となっていたと考える。

一方で、交流会の進行方法については、「より多くの参加者と交流できるよう卒業生だけでなく4年生の席の移動を取り入れてほしい」「学生が発言しやすいよう事前に質問を募集するとよい」などの改善に関する意見もみられた。また、年代の違いにより話しにくいと感じる参加者もいた。これらの意見を踏まえ、次年度以降は交流方法や進行の工夫を検討する必要があると考える。